No.75　　1995年7月10日発行

高退協ニュース

高知高退協事務局
1995・7・10
No.75

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸ノ内二丁目一の一〇
教育会館内　高教組気付
TEL　〇八八八－二二－六八二二
振替口座　徳島　五－一一八九三

高教組五十周年
高退協二十周年

記念行事は来春3月10日（日）

来春3月8日は高教組（高等教組）の前身である中等教組が結成されて50年、5月1日は高退協がスタートして20年を迎えます。

両組織が相談の結果、来春3月10日に盛大な記念行事を共催することになり、いま急ピッチで準備がすすめられています。

記念行事はにぎやかな交流の場に

6月22日の準備会でだされた意見をもとに、企画委員会がたたき台を作成、7月8日に開く実行委員会でこれを検討することになっています。

当日は高知城ホールを借り切り、1、2階では高教組と高退協の歩みを写真と機関紙やビラでふりかえる展示や美術展を開き、4階のステージでは演劇や歌と踊り、夕方からはセレモニーにつづいてレセプションを開くことが予想されます。

高退協では久びさに会う会員が過ぎた日々に想いをはせ、旧交をあたためる場にしたいと考えています。

記念誌に平和への想い託して

年初めから発足した記念誌編集委員会はすでに5回を重ね、会員からは「戦中の想い出」「勤評おぼえ書き」「戦争から平和への障害児教育」など次つぎと寄稿の構想が伝えられています。

編集委員会では「戦争を体験し戦後の民主教育を創った会員の証言集にふさわしく、さらに多くの寄稿をお願いしたい」と呼びかけています。

また記念誌のタイトルも「それぞれに、この五十年」「戦争と平和の証言」などが提案されていますが、さらに多くの提案を寄せていただくようのぞんでいます。

新たに二十一名が加入

今春、退職者二十一名が高退協に加入し、現在会員は三百三十一名になり、これまでの最高で結成二十周年をむかえることになります。

勤評裁判

第13回口頭弁論が開かれ、原告側本人尋問が行われ山原健二郎氏が証言に立ちました。

次回は9月11日10時より山原氏に対する反対尋問と県教組代表原告、川崎雅宏氏に対する主尋問が予定されています。

年内に結審し、年度内判決が出される見込みです。

第14回口頭弁論に先立ち、裁判勝利を目指す決起集会を8月28日（月）18時より高知城ホールで予定しています。

決起集会・第14回口頭弁論とも、満席にしたいものです。積極的参加をよろしくお願いします。

詳しくは、勤評裁判ニュース2号をお読み下さい。

（和田）

四国ブロック交流会のお知らせ

1. 期日　10月3日（火）・4日（水）
2. 会場　徳島県阿南市津乃峰町長浜　国民宿舎「津乃峰荘」
3. 経費　1人（1泊2食）1万円
4. 日程　3日　午後3時（開会）
　～5時半　全体会　6時半～9時　交流会
　4日　午前9時～10時　全体会
　10時半（閉会）　自由行動

三たび、記念誌への寄稿をお願い

記念誌編集委員長　浜田昌俊

反戦の想いを民主教育の創造にそそいできた私たちの証言は、高教組50周年にふさわしく、あとにつづく者への大きな贈り物になるでしょう。ぜひ、あなたの寄稿をお願いします。

次の要領で原稿をお寄せください。

内容：戦争体験をふまえ戦後をどう生きてきたかをエピソードを交えお書き下さい。
原稿：400字詰原稿用紙10枚以内
締切：8月31日
送り先：高知市丸ノ内2丁目1－10
教育会館内高教組気付
高退協記念誌編集委員会宛

記念行事のため一口千円のカンパをお願い

高退協会長　坪井幹之

記念行事と記念誌発行を成功させるためのカンパです。本年度の総会に提案され了承されたもので、詳しくは総会議案の予算をご覧ください。

記念誌は、機関誌「こうたいきょう」の特集号として発行し、会員にはこれまで通り無料でおとどけします。しかしページ数、部数とも多く、従来の予算では不足するため、記念行事の運営資金とあわせてカンパをお願いする次第です。

同封の振込み用紙でご厚志をお送りください。

草声老語

私は小学校を卒業していません、といったら驚く人が多いだろう。いま時、小学校を出ていない人なんか、めったにいない、と。

しかし本当なのだ。我々「昭和ひとけた」世代は、入学したのは小学校であっても、一九四一年の国民学校令によって、軍国主義教育体制が完成する中で、卒業したのは「国民学校」であったのだ。

一九三一年、柳条湖事件（満州事変）とともに生まれ、一九四五年中学二年生で敗戦を迎えるまで、十五年戦争のなかで、立派な「軍国少年」に育てられていた。

「戦地の兵隊さん」に生懸命手紙を書き、中学校では教練部に入り、毎日三八銃や村田銃の手入れをした。授業はほとんどなく、勤労奉仕が多かった。兵隊といっしょに、後免駅の北の坂折山の上や、岩村の桑畑の中で、塹壕堀りの作業をした。すべて「天皇のため」であり、「ほしがりません勝つまでは」であった。

このように教育された日本国民には、侵略戦争の真実は何も知らされなかった。国民を戦争へ総動員する最高の手段は教育であった。ヒットラーも「ウソも百回繰り返せば真実になる」と、宣伝を重視した。今の言葉で言えば「マインドコントロール」である。

「勤評は戦争への一里塚」と予言して闘って、はや三十年。いま、すべての校長が「勤評」を書いていることを誰もとがめない。主任手当も「日の丸・君が代」も職員会の論議にならないという。上意下達の管理体制は大本営発表と異なるところはないではないか。

人間は忘れやすい動物だという。しかし、我々は小学校を卒業していなくても、軍国主義はまず最初に教育を支配するという鉄則をもっていることを忘れない。二つめの一里塚を越えさせてはならないからだ。

（充）

アカシアの大連から

95・5・18
叶岡　淑子

異国での仕事と生活にやっと慣れ、ふと気がつくと帰国の日も間近になっています。遅ればせながら、現地からの、とりとめもないご報告を二・三……。

＜中国の大学生＞　たしかに真面目で勉強熱心で純朴です。静かな教室、少ない欠席、キャンパスの木陰のあちこちに暗唱する姿も目立ちます。日本語を習い初めて二年めの学生たちの大部分が１０００字の作文を書き弁論大会に参加しました。日本から来たこのおばあさんの授業も大切にしてくれます。それだけに要求も高く、私は歳をとる暇もありません（誕生日に４０人もの学生が来てくれたのにはびっくり）。彼らの多くは将来、国のリーダーか経営者になるのが希望とか。スポーツと恋はどこの国の若者も同じです。

＜食べ物＞　庶民のたべものは質素。安月給に見合うよう私もせっせと市場にかよい、不便な共同台所でマッチをすっては自炊しています。でも野菜の味は同じでも、何せ油も調味料も違うので外国人にはつらい。弁当箱持参で買う学生食堂のお菜も街の拉面店のラーメンも安いけれど口に合わない。（少しばかり持ってきた味噌でつくる味噌汁や海苔がどんなに貴重なことか！）ところが一流ホテルの中国料理は、とびきりおいしいのです。それは国慶節と新年、大連市から外国人教師が招待された二度だけでしたがー。

＜”開放都市”大連＞　合弁企業ラッシュ、ビル建設ブーム、テレビCMによる商品宣伝、デパートに溢れる人と購買力。急激な経済発展と人々の生活や意識の変化は、日本の高度成長時のよう。「大連を北方香港に」ーこれが大連市長の提言するスロ　ガンです。一方、インフレ（米の値段は一年で二倍）、貧富の格差の拡大（街に母子の乞食も）、水不足や緑の破壊（環境問題への認識の遅れ）など大変な状況です。大連はどこへ行くのでしょう？かつての日本侵略の跡を訊ねる私に返ってくる言葉は「昔の歴史ですから…」。

＜この声を！＞　それでも南京出身の一人の学生は、前述の作文にこう書いています。「私には日本人への憎しみが生まれつき骨の中にしみこんでいます。しかし成長するつれて日本人にも平和の好きな人がいるということも聞きました。…でも夏が近くなると戦争の好きな人の活動も活発化します。腹がたってならないのは”日本は東南アジアを救うために戦ったのだ”という説です。……すべての平和の好きな方々、中国人と日本人が友達になって中日友好のために頑張りましょう。」ーこの声をぜひ聞いてください。

＜中国女性事情＞　この夏北京で「国連第四回女性会議」が開かれます。こちらのマスコミは宣伝不足のように思われます。NHK短波ニュースによれば、そのNGOフォーラムの会場が突如北京市郊外に変更されたことでもめているようです。女性解放、本当にやる気があるの？ーどこかの政府へと同じことを聞いてみたいですね。というのは、授業等で「女性と男性」についてディベートをした時、この国に残る、または拡大再生産される男尊女卑思想に唖然としたのです。このことはまた別の機会にご報告したいです。

五月は大連の一年中で一番美しい季節、アカシア祭りで賑わっています。弁論大会の決勝大会がすみ七月初旬テストも終われば、いよいよ私の風変わりな挑戦？お終わりです。このところ天災やら人災やらで大変な日本が急に身近に感じられるようになりました。

「泰泉寺日記」抄

坪井　幹之

五月

［一日］メーデー集会後、今年度初の事務局会議。会員の拡大と任務分担について協議。

［五日］久しぶりの五月晴れ「老泳会」に参加、楠の若葉に輝く筆山の下で一泳ぎ。

［七日］「山の会」昨年スズメ蜂に襲われた二ツ岳に再挑戦。参加者十九名。春霞の登山日和、思わぬ満開のアケボノツツジに感嘆。峨蔵越からの直登の連続を全員無事にこなして登頂。これこそ登山といえる山行であった。

［十二日］「老泳会」の日。季節は初夏に。夏雲の立つのを見る。

［十三日］高知城ホールで「スイス・ハイキングツアー」の説明会。参加者二十七名全員出席。夜の結団式で気勢を上げる。

［十六日］二時より高退協事務局会議。任務分担などを決める。五時より高知城ホールで事務局歓送迎会。中田さん、谷山さん、市川さん、ご苦労さまでした。

［十九日］「老泳会」久しぶりに全員顔を揃える。

「二十日」高退協読書会五月例会。六名の出席で、「中岡慎太郎」と「あいまいな日本の私」の書評。慎太郎が竜馬と肩を並べる人物であること、大江の本は難解で真意が掴みきれないことが大方の意見。次回は八月に「ワイルド・スワン」を取り上げる予定。

［二十二日］一時より高教組執行部との交流会。三時より高教組と合同で五〇周年・２０周年の記念行事についての準備会。企画立案の担当者と次回の会を七月に開くことを決めてお開き。続いて五時より懇親会。

［二十六日］「老泳会」に参加。

［二十七日］読書会の六名で北川村の中岡慎太郎館を訪問。

［二十九日］記念誌の編集委員会あり。更に原稿依頼に積極的にとりくむことを確認。

［三十日］弘瀬光明さんの告別式に参列。最近はお元気な様子であったのに残念。六十代の死去が多い。「死よ、驕るなかれ。」である

六月

［二日］「老泳会」の日。久しぶりに一息で二十五米を泳ぐ。自信回復。

［四日］「山の会」六月例会野地峰に登る。参加者十六名。頂上よりは赤石山系が指呼の間、五月の二ツ岳のルートも確認。下山後「白滝の里」でバーベキューの昼食。やはり和牛はうまかった。

［五日］「勤評裁判」傍聴。さすが山原さん、胸が熱くなるような証言。次回は九月。

［六日］中央病院に入院中の上原傑さんを見舞う。経過良好で七月には退院の予定と聞く。

［九日］入梅の発表あり。「老泳会」に参加。

［十二日］高退協事務局会議。工科大問題について共産党の見解を聞く。公開質問状などのとりくみを確認。その他、夏季学習講座、研修旅行等について協議。

［二十一日］第5回記念誌編集委員会。原稿依頼の現状を集約。もれている分野についての手立てを話し合う。

［二十三日］「老泳会」梅雨空の下市営プールへ。

声

一票の重み

村山政権に対する初の審判が参議選として七月六日公示七月二十三日投票として行われようとしています。また、本年は戦後五十年の記念すべき年で、さまざまな行事が実施され、戦中派の一人として感慨一入のものがあります。

そのなかでとくにやりきれない思いをしているものに「戦後五十年国会決議」の問題があります。大戦中のわが国のアジア侵略について、侵略戦争として決して認めようとはせず「侵略的行為」や「植民地支配」の文言によって戦争の本質をボヤ化し、戦争責任を免罪すること。また、第二次大戦は近代戦のなかで列強の風潮であり、日本はそれにまき込まれただけという戦争合理化による歴史の歪曲。まさに戦後政治の原点がヒックリ辺されるような怒りをおぼえるこの頃です。

オール与党化。社会党の変質のなかで多数派の横暴は許されない。頑張ろうではありませんか！

（崎山記）

高知工科大の問題点（Ⅱ）

二、設立決定の過程に多くの無理と問題点がある。

(1)県議会を中心とする動き

①平成三年四月、県議選

中内知事の時代であり、工科大の話題はなかった。

②平成三年十二月、知事選

工科大は公約だと言っているが、選挙公報で「工科系大学の創設」、高新上での私の公約や知事当選直後の抱負などでは「工科大学設立の二つの動き」、高知大案と県立民営案と思われる）を一本化して進めたいとあるだけで、内容、県立民営ということ、巨額の県費を投入すること、等には触れていない。

これでは、公約だと言って県立民営を強引に進める根拠にはならない。

③その後、県議会内は否定的な意見が支配的であった（高新一連の流れからみて）

④また、平成五年七月三一日高新（高新企業世論調査）によると、

・巨額の経費を考慮し、慎重に検討すべき　四五、五％

・県費の持ち出しがあってもやるべき　二六、一％

⑤右のような状況の中で、県議会直前の平成五年九月二〇日（二一日の高新、毎日）自民党が六項目の付帯条件を付けて、工科大設立にゴーサインを出した。自民党県議団三十名の賛成で、設立は決定的になった。

付帯条件の一項目に「……行政改革を断行すること」とある。

これは、言い換えれば、行革を断行して、その金を工科大へ回せということになる。このことは、県の出先機関の統廃合や予算削減、事業打切りなどとなって、今後、各所へ出てくると思われる。

この決定は、県民に背を向けるものであり、自民党横暴、県政私物化である。

⑥平成五年九月、県議会（9／27～10／13）賛成多数で設立を決定した。

三年四月の県議選のときには話題にはなかったし、知事選以後も、県民に対して何の手立て（世論調査や説明会、対話集会など）もせずに、一体、県議会はどこで県民の意向を確かめたか。

また、県議会自体の論議の不足も新聞などで指摘されている。

こんな状態のなかで、何故、これ程、性急に決めなければならないのか。

それは、

△生徒減少期に入るので、大学新設認可は難しくなり、平成九年開学が恐らく最後のチャンスになるのではないか。それから逆算をした行政の都合による決定。

△知事が早く実績を上げたい。県民がいろいろ知らないうちに強行するのが得策である。

等ではないかろうか。

また県民は、県議会に「何を決めてもよい」と白紙委任はしていないと思う。

(2)

①高知大学や高知県工科大検討委員会との関係

県議会が工科大設立を決定する僅か七ヶ月前の平成五年二月二二日

高知大学工学部設置検討委員会は「設置構想の具体案」を発表した。（二三日高新、朝日、読売）

この時期に具体案を発表することは、工学部誘致に向けて検討を進めている証拠である。全県的な支援運動をおこして一挙に誘致すべきであった。

②更に

平成六年一二月七日、高新連載「高知の教育ルネッサンス」71によれば、高知大は現在も工学部の方向を探っている。

③一方、

平成四年一二月

高知県工科大学構想検討委員会は「柔軟性、ユニークさなどから公設民営が望ましいが、担を考えると、高知大工学部設置運動の支援も検討すべきである。こうした点を県民の前に明らかにしながら…」と、答申をしている。にも拘らず、議会や県民に両者の比較検討をはかることなく。この答申直後の十二月県議会で、一方的に公設民営方式を打ち出している。

①②③のことから、知事には高知大学との連絡、調整の考えは毛頭なく、大学とは無関係に、また、「県民に長所、短所を明らかにして比較検討せよ」という答申をも無視しての決定である。

この方針を打ち出して以後

平成五、三、計画策定委員会発足

同、五、八、計画の最終答申

同。五、九、県議会で設立決定

と、高知工科大設立は県民世論や、何百億円という県費負担等とは無関係に進められている。

（林　勤）

全退教第5回定期総会

―戦後50年記念の行事を確認―

終わる

全国退職教職員連絡協議会（全退教）の第5回定期総会は、6月1日午前11時から東京都飯田橋で開かれ、高知高退協から岡崎副会長が出席しました。

全国34組織、70名の代表者が出席。宇野全退教副会長が開会挨拶。議長団に西森（高知）高橋（全群馬）の両氏を選出。

藤森会長の挨拶、山口全教委員長のメッセージ、地元退教協（障害児校）の歓迎挨拶が行われました。

議事に入り、松原事務局長が、一般経過報告と運動方針を提案。決算・予算と引き続き提案されて午前部を終了。

午后1時から、提案された諸議案の審議採決が行なわれ、全議案が満場の拍手で承認されました。

運動方針部分については、まず①一般報告について、②戦後50年記念行事について、と大別されて討論が行なわれました。

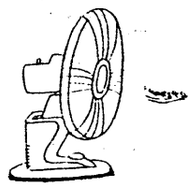
22名が各県の取り組み状況を報告しましたが、高知高退協の取り組みについても詳しく報告し、討論に参加しました。

「戦後50年」をテーマに各県・各地で創意ある取り組みが計画されており、現退一体となっての一大イベントが全国的に展開される模様です。

なお、一年がかりで分担金の見直しを行なうことが確認されました。

役員選出、総会宣言を採択し5時少し前に全日程を終了しました。

楽しく、元気に活躍することを誓い合って散会しました。



老・眼・鏡

「人びとのかたち」

これは、塩野七生が月刊誌に四年間連載したものをまとめた、映画に関するエッセイ集である。映画が土台になっているから、映画を観ている方が興味も増すが、観ていなくても、著者の人間観察や美学、披瀝される生きるスタイルなどを楽しめばいい。

映画は「モロッコ」（一九三〇）あたりから「ボディガード」（一九九二）あたりまで。それにしてもよく観ている。昔は映画館で、今はテレビやビデオで。「ニュールンベルグ裁判」も、「八月の鯨」も登場する。殆んどアメリカかイタリア映画。著者の名作中心ではない。切り口が見せやすいのが選ばれているのだろうか。

映画から、人間洞察、社会批判、文明批判に展開していくところが著者の才気である。例えば、「白いドレスの女」で、男性の悪女願望を指摘し、「山猫」から現在のイタリアの混迷を推察する。メル・ギブソンの「ハムレット」は母親の愛をクローディアスと争う三角関係でとらえられている。「八月の狂詩曲」の黒沢の良心をうけとめるまっとうさもある。

著者のごひいきは懐かしやゲーリー・クーパー。私はのそりと歩くという感じの手足の長いクーパーの風貌を久しぶりで思い浮べた。

著者の両親は、著者の十二歳頃から大人の映画を見せたという。映画鑑賞を読書と同列に置いていた両親への献辞が冒頭にある。

映画と読書と。私も怠けてはいられない。

（坂本）

夏季学習会

日時：１９９５年８月３０日（水）
　　ＰＭ・２：００～４：３０

場所：高知城ホール２階　会議室

内容：①岡崎昭平さんのビデオ「時計はまわる」「サンショウウオ・ウォッチング」最近の映像とお話。
②叶岡淑子さんの中国からの帰国報告
③医療生協の重光新一さんの「在宅医療や介護保険の諸問題」

続いて５時から日本間で懇親会をもちます。会費は５，０００円です。
沢山のご参加をお願いします。

私の不健康歴

「私の健康法」を書けといわれて困ってしまった。何もしていないから。ジョギングも散歩も、トレーニングも何もしていない。それどころか、酒もタバコもようやめない。むしろ「私の不健康歴」でも書いてもらいたい。

在職中の五七歳のとき、胃の検診でひっかかり、ポリープができていると手術を受け、胃の五分の四を切除した。退職後の六五歳のとき、腰痛で歩けなくなり、椎間板ヘルニアとのことで手術をした。前回は腹であったが今回は背中を切った。腰痛はなくなったが右脚の足首の屈伸ができなくなって、身体障害者手帳をもらうことになった。身体髪膚を毀傷しないのが孝の初めであるのに、腹背から毀傷して不孝の至りであることを痛感した。

遡れば中学二年のとき、肋膜炎がもとで入院し結局一年間休学した。合計三回の入院を体験したが、幸い還暦も遥か昔になり、古稀をさえ越してしまった。「人生七十古来稀」と杜甫がうたったことは有名だが、その前に「酒債尋常行処有」という文句があることは余り知られていないようである。酒代の借金はありふれているということは、昔も今もかわりがないようであり、身につまされる思いである。

もう七十歳をも越したからには、酒・タバコはもちろん、きちんと摂生ができるようでなければならないとは思うが頗る怪しい。孔子は「七十にして心の欲するところに従ひて矩を踰えなかったらしいが、凡人にはなかなかむつかしい。せめて何か一つでも、自分に適した健康法を励行したいと思っている。

（N・N生）

スポーツ（運動）のすすめ

窪田一郎

今回はいままでのまとめをしたいと思います。

年をとってくると、頭（大脳の随意運動中枢）の指令があってもそのとおりにいかないことがふえてきます。ほんの一、二センチの段差につまずく、すりぬけられると思ったのに肩をぶつけるなどということがおこりまます。こんな事からケガし、寝たきりとなった例も数多く報告されています。

運動は、こんなことを少しでもなくすことが一つ、もう一つは精神的、肉体的リフレッシュをめざし、決してムリをしないことが大切だと思います。

われわれの年令になると土佐弁でいうと体がハソいの状態になってきます。この状態でのおすすめの運動は水泳です。体重が消去されて、関節や筋肉のトレーニングができるという理由からです。ジョギングで失敗（膝の痛み）した65歳の人が半年間水泳をして、今では水泳とジョギング３～４キロやっているという例もあります。

急激なショックを体の一部にもたらさないような、じんわりとした運動を継続的にすることが望まれます。

しかし「言うは易く行うは難し」で、仲間づくりトレーニングはのびはのびとしたサークル的なものでないと誕生が必要というのはのでしょうか。

今、高退協では、老化防止という目的だけではありませんが、山の会（月一回の日帰りの山行）、水泳、テニス（週一回）が定着したサークルです。他に太極拳サークルの紹介もできます。

研修旅行へのお誘い

昨年末の幡多支部の方々のご意見も勘案して日程をつくりました。

今年の事務局での担当は、溝渕和江、竹島寛之、窪田一郎の三名です。全くの新人ですがよろしくお願い致します。

日程は従来より約半日（一二時間余り）長くなり、費用も一万円余り嵩みますが、皆さんぜひご参加ください。旅程の大筋は次の通りです。従来通り貸切バスで行きます。最終旅程はニュース九月号でお知らせしますが、大筋は変わることはありません。

10月 26日（木）
17:30　高知市役所前発
20:30　松山着（途中夕食自由）
22:00　松山港（フェリー）

10月 27日（金）
5:00　小倉着
7:00　太宰府着　（朝食）
8:30　〃　発
9:30　吉野ケ里着
11:30　〃　発
12:20　日田着（昼食・市内観光）
14:30　〃発
16:00　湯布院着（観光）
17:30　湯布院ホテル　チェックイン

10月 28日（土）
8:00　湯布院ホテル発
晴天なれば鶴見岳に、天候悪ければ大分市のしかるべき施設（美術館、博物館など）
12:00　佐伯着　（昼食）
13:00　〃発
16:30　宿毛着
20:00　高知市着　（途中夕食自由）
費用概算　４３，０００円

サタディ（テニス）クラブへのお誘い

事の始まりは八年位前、市商定時制の窪田、梅原、溝渕さん達が「健康と親睦」をスローガンに「テニスやってみようや」ということだったらしい。金曜日にやるので「フライディクラブ」と命名、針木コートで発足、間もなく春野道場（県営）に移転した。会員はしばらくは５～６人から７～８人だったが、ここ一年位で急激に組織を拡大して、現在は二十数名、大別して教員の退職者、定通の現職、窪田会長の友人、である。

某教団は大学の文化祭、サークル活動で人集めをしたらしいが、我がグループは専ら宴席が勧誘の場である。たれでも人間稼業を長くやると金属疲労がたまって、一病や二病とつきあっている。小生も医者から運動で減量するよう警告され、思案していた矢先、ある会（？）で会長から誘われ「全然やったことがないが できるかよ？」と言いながら入れてもらった。中には一年も前から宴席を同じくする度に誘われ、最近帽子から靴まで全部新調し、退路を断っての入会を決意した御仁もあるときく。

例会は金曜日（最近は月曜日も）九時三〇分～十一時三〇分。約一時間は自由練習で、初心者には先輩がやさしくコーチしてくれる。後の一時間は初心者も入ってダブルスの試合。技量は千差万別、凡ミスを悔しがったり、上手の手から水がもれたり、初心者といえども「下手な鉄砲も数打てば何とやら：：」たまには球の方が同情して当たってくれることも。この辺がテニスの面白い所かも知れない。中には技量より毒舌による マインドコントロールで敵失を誘う特技の持主もいる。初心者ほど走り回る範囲が広く、従って運動量も比例し、それだけダイエット効果も大きいことになる。

費用は一回三〇〇円（コート代）。入、退会共全く自由、参加できるときに参加したらよい。参加しなくなっても拉致されたり、リンチされることもないのでご安心ください。

会員の年令は六〇αから二十代まで幅広い。戦前・戦後の体験から最近のニュースまでさながら生きた社会科学習の如き意義ある話題もあるが、下らぬ話も多くて、なごやかな雰囲気だけは疑いの余地がない仲よしのサークルである。皆さん一緒にテニスで汗を流しませんか！

（K生）

スポーツ、テニスに関心のある方は窪田一郎（44－0333）までご連絡下さい。

訃報

会員の弘瀬光明先生が五月二十八日に死去されました。
ご冥福を心からお祈り申し上げます。